

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成21年9月10日 (2009.9.10)

【公表番号】特表2009-502127(P2009-502127A)

【公表日】平成21年1月29日 (2009.1.29)

【年通号数】公開・登録公報2009-004

【出願番号】特願2008-521910(P2008-521910)

【国際特許分類】

A 0 1 H 1/00 (2006.01)

A 0 1 H 5/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 2 3 L 1/10 (2006.01)

C 0 8 B 30/00 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

A 0 1 H 1/00 Z N A A

A 0 1 H 5/00 A

C 1 2 N 15/00 A

A 2 3 L 1/10 Z

C 0 8 B 30/00

C 1 2 N 5/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月23日 (2009.7.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遺伝子組み換え植物細胞のデンブンのリン酸塩含有量を、遺伝子組み換えしない野生型の対応する植物細胞由来のデンブン（100%）と比較して、150～500%に増加させるプロセスであって、

a) 可溶性デンブン合成酵素IIをコードする外来核酸分子を導入することにより、植物細胞の遺伝子組み換えを行い、および

b) この可溶性デンブン合成酵素IIを過剰発現させる、プロセス。

【請求項 2】

前記外来核酸分子が、異種の可溶性デンブン合成酵素IIのコーディング領域である、請求項 1 記載のプロセス。

【請求項 3】

前記可溶性デンブン合成酵素IIが、単子葉植物由来の可溶性デンブン合成酵素IIである、請求項 1 記載のプロセス。

【請求項 4】

前記可溶性デンブン合成酵素IIが、小麦由来の可溶性デンブン合成酵素IIである、請求項 1 記載のプロセス。

【請求項 5】

前記可溶性デンブン合成酵素IIが、配列番号 1 に示すヌクレオチド配列を有する、請求

項 1 記載のプロセス。

【請求項 6】

前記遺伝子組み換え植物細胞が、ジャガイモ、トウモロコシまたはイネ細胞である、請求項 1 ～ 5 のいずれか 1 項に記載のプロセス。

【請求項 7】

D S C T - 開始温度が 7 0 ～ 8 0 である米デンプン。

【請求項 8】

前記 D S C T - 開始温度が 7 2 ～ 7 9 である、請求項 7 記載の米デンプン。

【請求項 9】

請求項 7 または 8 記載の米デンプンを含む誘導体化米デンプン。

【請求項 10】

請求項 7 ～ 9 のいずれか 1 項に記載の米デンプンを含む組成物。

【請求項 11】

請求項 7 または 8 記載の米デンプンを含む米粉。

【請求項 12】

請求項 10 記載の米粉を含む組成物。

【請求項 13】

請求項 7 または 8 記載の米デンプンを含む米粒。

【請求項 14】

請求項 13 記載の少なくとも 1 つの米粒を含む組成物。

【請求項 15】

請求項 13 記載の少なくとも 1 つの米粒を成長させ、および / または請求項 7 または 8 記載の米デンプンを含む、イネ。